高等教育機関との連携による公民館事業の開設

―― 現代的課題に関する学習機会の提供を通して ――

足利市教育委員会事務局　生涯学習課
公民館職員研究部会(南部第2ブロック専門部会)

1　は　じ　め　に

平成4年7月29日に出された生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」では、行政の役割を「多様化・高度化する人々の学習需要を的確に把握し、これに適切にこたえ、多様で質の高い学習機会を提供することと、両者を結び付けるための適切な情報サービスの提供が重要である。」としており、「より一層、学校などの教育機関やその他の研修・研究機関等と密接な連携を図っていくことが必要になってくる。特に今後は、大学や大学院レベルの学習機会の提供が従来よりも求められ、高等教育機関の教育・研究機能を一層高め、生涯学習の振興に資するための努力をしていくことが必要になってくると考えられる。」と、社会の変化やニーズに応じた高度な学習機会を提供することの必要性と、高等教育機関等の果たすべき役割の重要性を指摘している。

これを受け、本市教育委員会では、高度化する学習要求に応え、専門的な学習機会を提供するため、市の課題や現代的課題の解決を目指した「足利市民大学講座」を開講してきた。

公民館において、市民を対象とした学級・講座を実施する場合、それを企画・立案する公民館主事（事業担当職員）の資質が重要な位置を占めることは言うまでもない。そのため、学習の高度化や専門性を重要視する足利市民大学講座では、公民館主事の研修組織である公民館職員研究部会で、プログラム開発の共同研究を続けている。

ここでは、平成11年度から足利市で初めて、高等教育機関（足利工業大学）との共同開催で実施した、「科学技術」と「エネルギー」をテーマとした講座の経緯について紹介したい。

2　現代的課題とは

社会の急激な変化に伴って多くの教育的課題が生じていることは、昭和46年9月2日の社会教育審議会答申の中ですでに指摘されていたが、現代的課題について取り上げたのは、前出の生涯学習審議会答申である。その中では、「今日の我が国の社会は、（中略）科学技術の高度化、情報化、国際化、高齢化の進展等により、急激な変化を遂げつつある。そのことが人間の生き方、価値観、行動様式を変化させ、従来の生き方、価値観、行動様式が、時代の要請するものとそぐわなくなっている。このようなことから、（中略）人々が社会生活を営む上で、理解し、体得しておくことが望まれる課題が増大している。」として、「社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、人々が学習する必要のある課題」を現代的課題として、次のような例を示している。

①生命　②健康　③人権　④豊かな人間性　⑤家庭・家族　⑥消費者問題
⑦地域の連帯　⑧まちづくり　⑨交通問題　⑩高齢化社会　⑪男女共同参画型社会
⑫科学技術　⑬情報の活用　⑭知的所有権　⑮国際理解

⑯国際貢献・開発援助　⑰人口・食糧　⑱環境　⑲資源・エネルギー

そして、これらの課題に関する市民の学習状況については、「学習者が学習しようと思っても学習機会がなかったり、自己の学習課題に結び付かなかったり、学習課題として意識されないものも多い。」と指摘しており、「生涯学習の中で、現代的課題について自ら学習する意欲と能力を培い、課題解決に取り組む主体的な態度を養っていくことが大切である。」と、学習者自らが課題の解決者となることを望んでいる。

また現代的課題は、「社会や人々の生活の変化に応じて流動的なものであるため（中略）地域の実情に照らして、何が現代的課題であるか、常に研究していくことが必要である。」と、学習機会を提供する側の研究の必要性を述べている。

3　足利市の取組み

本市では、公民館で開設する学級・講座の中に、現代的課題に関する学習機会を設け、課題の解決に向け、積極的に取組むことのできる主体的な態度を養うように努めてきた。そこで行われてきた学習には、大きく2つの取組みがある。

(1)　より多くの市民に

公民館では、少年、青年、成人を対象に多くの学級・講座を開設しており、それぞれの学習計画の立案に際して、現代的課題に関する学習を積極的に取り入れるように進めてきた。

中でも、家庭教育学級や乳幼児学級、父親学級などの、主に子どもの保護者を対象とした学級では、「家庭・家族」という課題を学習の中心としている。また、地域性が高く、毎年継続して受講している市民が多い女性学級と高齢者学級では、「地域の連帯」や「交通問題」、「消費者問題」、「健康」など、様々な課題について年度ごとに検討しながら学習機会を提供してきた。さらに、これらの学級においては、「人権」を必須の学習課題として位置付けて実施してきた。

〈表1〉　平成12年度学級・講座数

区　分	学級・講座数
市民学校	4
家庭教育学級	11
乳幼児学級	8 (1)
父親学級	6
少年教室	4 (2)
青年学級	2
女性学級	21
高齢者学級	19
三世代交流事業	4
足利市民大学講座	16
各種講座	59
合　計	154

(　)：足利市民大学講座に位置付けて実施している数

少年教室や青年学級では、発達段階に合わせた課題を選び、楽しみながら学習できるような計画を立てている。特に、青年学級では、受講者自らが日常生活の中から課題を発見し、追及し、発表していくような自主的活動を中核にして、学級を運営している。

(2)　より専門的に

現代的課題や足利市の社会的課題の解決を目指して、より専門的な学習機会を提供するために、平成5年度より「市民大学講座」を開講し、多くの市民の参加を得てきた。しかし、学習機会の提供者である公民館では、年を追うごとに高度化、多様化する内容への対応が迫られ、一人の職員への負担が過重となってきた。

そこで、平成9年度より、公民館職員の研修の場である公民館職員研究部会において、市内を6ブロックに分けた専門部会を設置し、現代的課題に関する事業実施の共同研究を始めた。（ただし複数の職員が配置されている織姫公民館と助戸公民館では、館単独で実施する講座も担当する。）この研究は、異なる公民館の職員が協力して次年度に実施する講座の企画・立案を行うものであり、実際に講座が実施されたのは平成10年度からとなった。この研究には市内の全公民館主事が関わることから、一つの課題でも複数の視点から捉らえることができる他、全職員が常に目的意識をもちながら市民の生活や社会の動きに注目するようになり、新しい課題の設定や内容の充実にもつながってきている。

また、平成10年度からは、名称を「足利市民大学講座」に変更し、更に「とちぎ県民カレッジ連携講座」にも登録し、広く県民に多様な学習機会を提供してきた。（表2参照）

〈表2〉　平成12年度足利市民大学講座　　※：公民館職員研究部会による共同研究事業

No.	講　座　名	現代的課題	備考
1	心と心のカウンセリング	豊かな人間性、健康	
2	癒しの時代に生きる	豊かな人間性、健康	※
3	織姫セミナー「ゆとりの創造」	豊かな人間性	
4	人権セミナー	人権	
5	親子アドベンチャースクール	家庭・家族	※
6	パパママ育児セミナー（乳幼児学級）	家庭・家族	
7	足利をしる・みる・あそぶⅡ＜祭り＞	まちづくり	※
8	足利市女性大学	男女共同参画型社会	
9	織姫大学「メディア・ジェネレーション」	情報の活用	
10	生活を取巻く科学技術とエネルギーの行方	科学技術、エネルギー	※
11	外国人のための日本語講座	国際理解・国際貢献	
12	地球市民講座「世界の中の日本」	国際理解・国際貢献	
13	初心者のためのフランス会話入門	国際理解（語学）	
14	食糧～食と生活～	人口・食糧	※
15	自然との共生 ～人間化された生活環境と自然界を探求する～	環境	※
16	子ども探検教室（少年教室）	青少年の学校外活動	
17	子ども発見教室（少年教室）	青少年の学校外活動	
18	文学入門	（趣味・教養講座）	
19	ウクレレを楽しむ	（趣味・教養講座）	

4　高等教育機関

(1)　高等教育機関とは

高等教育機関とは、大学、短期大学及び専修（専門）学校を意味するが、職業能力短期大学校、農業大学校、中小企業大学校など高等教育機関に類するものもある。

これらの高等教育機関は、地域の住民にとっては遠い存在となりがちであったが、近年はリカレント教育の推進に伴う社会人の積極的な受け入れや、市民向けの公開講座の開催、講師の学外への派遣制度の創設など、大学のもつ教育機能の開放が進められ、様々な大学が社会人や地域社会に対する学習支援策を展開している。

(2) 高等教育機関の役割

多様な市民の学習要求に応え、生涯学習の振興を図るためには、高等教育機関に対する期待は大きなものがある。そこで、高等教育機関に期待される役割について考えてみると、

ア　地域に開かれた高等教育機関として、それぞれのもつ様々な資源を地域産業の発展、地域住民の生活の発展に役立てること。

イ　高等教育機関と官民公を含めた連携を進めていくこと。特に産学連携の効果的な方策を取り、人材育成や製品開発など教育資源を地域に還元すること。

ウ　高等教育機関の高度で専門的な学習機会の提供に対する期待が高いことから、開放講座の拡充を図るとともに、遠隔教育を可能にする学習方法の開発を進めること。

などがあげられる。

5　高等教育機関と連携した事業の展開

(1) テーマの決定

足利市民大学講座において現代的課題に関する学習機会の提供を進める中で、平成9年度より始まった公民館職員研究部会による共同研究事業では、次年度のテーマ（現代的課題）を4・5月の時点で決定し、1年間の研究により講座の計画を立案している。その中で、南部第2ブロック（御厨公民館、筑波公民館、久野公民館、梁田公民館）の平成10年度の研究は、次年度のテーマを「科学技術」と「エネルギー」として取組むことになった。

近年の急速な科学技術の進歩については、「環境」や「健康」などと同様に、多くの市民が身近に感じているものであり、日常生活の中で活用しているにもかかわらず、その専門性と範囲の広さから、公民館事業として取り上げることが少なかった分野であった。

〈テーマ設定の理由〉

高度科学技術時代といわれる今日、人々の生活の利便性は急速に向上している。その反面、産業廃棄物や大気汚染といった環境問題が浮上してきており、環境にやさしい資源・エネルギーの活用、開発が大きな課題となっている。

暮らしに密接に関わる話題を中心に、「科学技術の進歩は、我々の生活の何を引き換えに、何をもたらしたのか。」「生活が今後どの様に変貌していくのか。」を探りながら、私達の生活の未来を展望する意味で本テーマを設定した。

この学習を通して、私達の生活に深く関わっている「科学技術・資源・エネルギー」の現状と問題点を理解し、日常生活において、自ら率先して行動できるようにしたい。

(2) 大学との連携に向けて

テーマの決定に続いて、問題点や市民生活に必要と思われる部分を精査し、学習内容を決めていくわけだが、多くの市民が活用しているものであるからこそ、それ以上の学習ニーズを満たす専門的な学習を提供することができるかという危惧があった。さらに、共同研究と

はいっても1年間という限られた時間の中で、職員自身がテーマに関する学習を進め、その上に立って事業の計画を立てていくことは、多くの時間と労力が必要になる。

そこで、専門部会で検討の結果、より効果的な講座運営を目指すためには、その専門性を満たしてもらえる機関との連携による開催が必要であるということになり、まず地元にある足利工業大学との連携の可能性を探るために、同大学に関する資料の収集と関係者からの聞き取り調査を行った。

調査の結果、足利工業大学では創立30周年を迎えて、近隣の企業などとの共同研究を通じて基礎的な研究・技術開発を推進し、地域産業の基盤の向上に寄与するため、また、大学のもつ文化的・教育的な側面から地域に貢献したいとの考えから、企業や地域との交流の窓口として「足利工業大学総合研究センター」（以下「総合研究センター」という。）を平成10 年6月に設立することが分かった。地元の大学として、その専門的な知識や技能を地域社会に還元していこうという取組みである。

この講座は、平成11年7月の開講を予定したため、平成10年9月に総合研究センターに協力を依頼したところ、センター設立の趣旨である「地域社会と連携・協力を実践する場としての役割を果し（中略）地域の文化向上に寄与することを目的とする。」ことから快く了承をいただき、共同開催による事業の研究が始められた。

その後、講座の目的や双方の役割分担、学習内容、開催期日などについての協議を重ね、全体的な計画表を作成していった。（表3・表4参照）

〈表3〉　総合研究センターと市教育委員会の役割分担

	学習内容に関すること	運営に関すること
総合研究センター	・学習内容の決定 ・講師の選定と派遣	・開講式の開催 ・資料等の作成
市教育委員会	・テーマの設定 ・学習目標の決定 ・学習計画（日程）の立案	・受講者の募集 ・予算措置と執行 ・会場の準備 ・開講式の開催 ・資料等の作成

〈表4〉　平成11年度　足利市民大学講座年間計画表

学級・講座名：『生活を取巻く科学技術とエネルギーの行方』
～ 私たちの暮らしの明日はどうなるの？ ～

学習目標	生活の利便性が向上するにつれ、環境問題も深刻になっている。科学技術の進歩と私たちの暮らしに関係のある内容を中心に、未来展望を探りたい。 私たちの生活に深く関わる科学技術・資源（エネルギー）の現状と問題点を理解し、これからの日常生活において自ら率先して行動できるようにする。

No.	日　時	テ　ー　マ	内　　容	講　師　等
1	7月1日 （木） PM7：00～9：00	開講式 地球環境時代をどう生きるか！	技術の発展は環境に、どの様な影響を与えたのか。人と環境の共生への道を示す。	足利工業大学 共通課程（経済学） 教授　安原　和雄
2	7月15日 （木） PM7：00～9：00	どこまで進む？ 家電製品の技術	次々と新製品が発売される家電製品の数々。「使いこなせない」と嘆かず、最先端技術を知る。	足利工業大学 電気電子工学科 助教授　荻原　弘之
3	8月5日 （木） PM7：00～9：00	高齢化社会に活躍する介護支援機器	超高齢化社会により介護必要者も増加。介護を助ける最新機器の紹介。	足利工業大学 電気電子工学科 助教授　山本　博美
4	9月19日 （日）	社会見学 AM7：45～ PM5：00	・科学技術館 ・国立科学博物館	公民館職員
5	10月14日 （木） PM7：00～9：00	科学文明がもつ有毒の遺産！ …環境ホルモン	様々な科学物質の人体や環境などへの影響を学び、その対策、防御法を学ぶ。	足利工業大学 共通課程（化学） 教授　増田　慎治
6	10月28日 （木） PM7：00～9：00	睡眠と科学技術の意外な関係！	睡眠の仕組みと役割や科学技術と睡眠との意外な関係を学ぶ。	足利工業大学 経営情報工学科 教授　小林　敏孝
7	11月4日 （木） PM7：00～9：00	原子力は人類にとって善？ それとも…	原子力への依存度が年々増加している。人類は安全・有効に利用できるのか？原子力の基礎知識。	足利工業大学 副学長（物理学） 早川俊一郎
8	11月18日 （木） PM7：00～9：00	炭焼リサイクル＆エコロジー！ ～スミヤキストのすすめ～	炭の活用法から、本当のエコロジーまで学ぶ。 これであなたもスミヤキスト！	足利工業大学 共通課程（物理学） 助教授　新居　誠彦
9	11月26日 （金） PM7：00～9：00	コンピューターと話をしましょう！	高度情報化時代の昨今、ここまできたコンピューターの現状を実際に手で触れ体感してみる。	足利工業大学 経営情報工学科 教授　江袋　林蔵
10	12月2日 （木） PM7：00～9：00	環境にやさしい自然エネルギーの活用法！ 閉講式	風力博士の自然エネルギー活用講座。資源・エネルギーのこれからを学ぶ。	足利工業大学 機械工学科教授 総合研究センター長 牛山　泉

〈要求課題〉

生活に深く関わりのある技術と資源（エネルギー）の現状と問題点を理解する知識を求めている。

〈必要課題（教育目標との関連）〉

№50…資源の開発と活用を図り、産業の発展に努める。

№61…ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。

〈対　　象〉

県民（成人）約50名

(3) 平成11年度の事業結果

このような経緯で実施した本講座であるが、平成11年度の事業結果は表5のようになった。

〈表5〉　平成11年度事業結果

実施期間		平成11年7月1日～12月2日（全10回）		会　場	足利市梁田公民館
受講者数		男：64人　女：22人　合計：86人			
年齢構成		40歳未満	男：15人　女：5人　合計：20人		
		40歳以上65歳未満	男：46人　女：16人　合計：62人		
		65歳以上	男：3人　女：1人　合計：4人		
修了者数		男：12人　女：3人　合計：15人（7割以上の出席者）			
延参加者数		男：192人　女：66人　合計：258人			
回別参加者	第1回	男:43人　女:12人　合計:55人	第6回	男:12人　女:5人　合計:17人	
	第2回	男:20人　女:8人　合計:28人	第7回	男:19人　女:4人　合計:23人	
	第3回	男:18人　女:12人　合計:30人	第8回	男:16人　女:5人　合計:21人	
	第4回	男:17人　女:7人　合計:24人	第9回	男:14人　女:4人　合計:18人	
	第5回	男:14人　女:6人　合計:20人	第10回	男:19人　女:3人　合計:22人	

(4) 平成11年度の評価と反省

大学との共同開催による事業の実施は初めての取組みであったが、突然の共同開催の依頼にもかかわらず、学習内容の設定や講師の選定など、公民館主事が悩んでいた部分について専門的な立場から全学的な協力をいただき、本講座が実施できたことが第一の成果であった。足利工業大学のもつ専門性を生かした、高度な学習内容を市民に提供することができたのである。足利市民大学講座の目的の一つは、現代的課題についてより深く掘り下げた学習を提供することであるが、その点については十分に達成できたと考えられる。

しかし、講義内容が専門的であったことから、「誰にでもわかりやすく」とはいかないこともあり、課題の解決者としての市民意識の向上という点については課題が残った。1年目の反省点としてまず第一に、高度な内容であるからこそ、誰にでも理解しやすく、日常生活に反映できるものにしていく必要性を感じた。

受講者の募集については、市の広報紙や公民館だよりなどによる広報に加えて、小中学校や

近隣の事業所などにも開催案内を配布した。その結果、86名からの申込みがあったが、参加者数は回を追うごとに減少していく傾向にあった。個々の内容によって参加日を選択していた受講者も多かったことから、反省事項の二点目として、誰もが興味のもてる内容を検討する必要性も感じた。

一方、「成人男性、特に30歳代から50歳代の参加者が少ない。」という公民館事業における課題の一つに対しては、表5「事業結果」の年齢構成からも明らかなように、大きな成果を得られた。主に平日の夜間に開催した講座にもかかわらず、多くの男性に参加していただいたことは、その年代の人々がもつ興味や生活上の課題に、今回の内容が合っていたためであると考えられる。公民館事業の新たな受講者を獲得するためには、魅力あるテーマ、学習内容の設定が大きく影響することを改めて確認できた。次年度以降も、今回受講した方々に　再び参加してもらえ、さらに新たな参加者が得られるような講座の開発が重要な課題である。

(5) 受講者からの評価

受講者からの評価については、毎回、何人かの参加者からその日の感想の聞き取りを行う他、事業の最終日に事後アンケート調査を実施した。

調査の項目は、学習内容に加えて、広報方法の是非と曜日や時間、会場の設定などであるが、受講者の満足度の中でも、受講者の学習内容に関する要求をどれだけ満たすことができたかが評価の重要な柱である。

平成11年度の事後アンケートから感想の一部を紹介する。

ア　良かった点

- 身近なところで、ここまで科学が発展しているとは思わなかった。
- 最先端の科学技術について、具体的な事例を視聴覚を効果的に使用して説明され、分かりやすかった。
- 大学の講義を受けているようだった。高度な話を聞けてよかった。
- 地元の大学がどの様な研究を行っているのかが分かってよかった。

イ　改善を望む点

- テーマが難しいからか、内容も難しくなっていた。
- 全体的なテーマ設定が「身近」だったにもかかわらず、そうでもなかったように思う。
- 講師によって、知識や情報を伝えるだけの講義もあった。自分の知りたいこととは違った。
- もっと視聴覚機材を利用したり、分かりやすい講義内容を検討してもらいたい。

(6) 平成12年度への見直し

公民館事業の計画を立案する場合、年度の後半から素案の作成を始め、年度が改まった時点で前年度の事業結果などを参考にして、最終的な事業計画の立案を行う。しかし本研究の場合、平成12年度の事業計画の立案は、平成11年4月から検討が始められ、平成11年度事業の実施と同時進行で行われた。

そのため、研究の初期の段階では、表5のような事業結果や受講者からのアンケート調査の結果が得られておらず、毎回行ってきた参加者への聞き取り調査や参加者の反応の観察結果に、講座が実施されて明らかになってくる問題点の検討を加えながら、総合研究センターと共に学

習計画の立案に入った。

特に、テーマを決定した時点で2年間を1サイクルと考えており、学習内容が重複しないように内容の設定を進めていったが、事業結果や受講者からのアンケート結果を受けて「生活に密接に関わる問題」に力点をおき、生活に密着した講座を目指した。(表6参照)

〈表6〉 平成12年度　足利市民大学講座年間計画表

学級・講座名：『生活を取巻く科学技術とエネルギーの行方』

学習目標	生活の利便性が向上するにつれ、環境問題も深刻になっている。科学技術の進歩と私たちの暮らしに関係のある内容を中心に、未来展望を探りたい。 私たちの生活に深くかかわる科学技術・資源（エネルギー）の現状と問題点を理解し、これからの日常生活において自ら率先して行動できるようにする。

No.	日　時	テ　ー　マ	内　　容	講　師　等
1	7月13日 (木) PM7：00～9：00	開講式 環境にやさしい自然エネルギーの利用	世界的にも有名な風力博士である牛山教授から、環境にやさしい自然エネルギーについて学ぶ。	足利工業大学 機械工学科教授 総合研究センター長 牛山　泉
2	7月27日 (木) PM7：00～9：00	暑がりと寒がりの住まい方	夏や冬は電力消費の多い季節。少ない電力消費で快適に住む方法を学ぶ。	足利工業大学 建築学科 教授　垣鍔　直
3	8月24日 (木) PM7：00～9：00	大気汚染を考える～オゾン層破壊とその対策	紫外線量増加や温暖化など、地球環境に悪影響を及ぼす一因のフロンガスについて学ぶ。	足利工業大学 総合研究センター 客員研究員 大澤善次郎
4	9月10日 (日)	社会見学 AM9：00～ PM4：00	・電力館 ・未来科学技術情報館	公民館職員
5	10月12日 (木) PM7：00～9：00	橋の美観 ～世界の橋から 太鼓橋	橋の歴史や構造、各地にある様々な橋や足利の橋まで、橋のことなら端から端まで‥‥	足利工業大学 土木工学科 博士課程専攻主任 阿部　英彦
6	10月26日 (木) PM7：00～9：00	身の回りの電磁波	身近な電化製品から電磁波が出ている。電磁波とは？人体への影響は？	足利工業大学 電気電子工学科 教授　久保山彌八
7	11月9日 (木) PM7：00～9：00	特許のいろは	特許の申請の仕方から様々な特許物まで、特許のすべてを学ぶ。	足利工業大学 共通課程（法学） 助教授　高橋　政美

8	11月16日 （木） PM7：00～9：00	最先端のスポーツ医学～けがの予防と応急手当て	ちょっとした運動などで打撲や捻挫などしないよう、最先端のスポーツ医学を学ぶ。	足利工業大学 共通課程（体育） 助教授　吉田　弘法
9	11月30日 （木） PM7：00～9：00	人間とロボット	我々の生活に欠かせないものになったロボット達。その現状を学ぶ。	足利工業大学 機械工学科 講師　石井　千春
10	12月14日 （木） PM7：00～9：00	地域社会に生きる 閉講式	最先端技術が我々にもたらしたものとは何なのか。本当の豊かさとはいったい何なのか。	足利工業大学 教職課程 主任　笹嶋勇治郎

〈要求課題〉　〈必要課題（教育目標との関連）〉　〈対　象〉
前年度と同じ
〈前年度の見直し〉
生活に密接に関わる問題をテーマにした。

(7) 平成12年度の事業結果

平成12年度の事業結果は表7のようになった。

〈表7〉　平成12年度事業結果

実施期間	平成12年7月13日～12月14日（全10回）		会　場	足利市梁田公民館
受講者数	男：48人　女：13人　合計：61人			
年齢構成	40歳未満	男：11人　女：4人　合計：15人		
	40歳以上65歳未満	男：32人　女：7人　合計：39人		
	65歳以上	男：5人　女：2人　合計：7人		
修了者数	男：21人　女：5人　合計：26人（7割以上の出席者）			
延参加者数	男：250人　女：67人　合計：317人			
回別参加者	第1回	男:35人　女:10人　合計:45人	第6回	男:21人　女:8人　合計:29人
	第2回	男:24人　女:8人　合計:32人	第7回	男:26人　女:6人　合計:32人
	第3回	男:30人　女:6人　合計:36人	第8回	男:27人　女:10人　合計:37人
	第4回	男:22人　女:3人　合計:25人	第9回	男:22人　女:4人　合計:26人
	第5回	男:26人　女:7人　合計:33人	第10回	男:17人　女:5人　合計:22人

6　成果と課題

(1) 共同開催事業の成果

この事業が順調に進んだ背景は、先にも述べたように大学の地域貢献への取組みと市教育委

員会（公民館）の高度な学習の提供という取組みが、共同開催による講座の実施という形で目的を共有できたからである。

そこで、改めて双方にとってどの様な利点があったのかを見直してみると、

ア　公民館側の利点

- 学習内容の決定や講師の選定に対して専門的な立場から意見が得られ、より良い学習計画の立案ができる。
- 大学の研究成果を活用したより高度な学習を市民に提供できる。
- 大学のもつ最先端の教材や情報を学習に取り入れることができる。
- 講師の選定、依頼などの事務手続きが軽減される。

イ　大学側の利点

- 大学のもつ専門的な知識や技術を、生涯学習事業に生かすことができる。
- 大学の研究成果や取組みの状況を地域社会に知らせる機会になる。
- 大学のもつ文化的、教育的な側面から地域社会に貢献できる。
- 市民を相手にすることにより、研究者である講師を含めて大学内の活性化を図ることができる。
- 市民に身近な存在として大学が認識されるようになる。

などが考えられる。

これらのことが、共同開催事業の具体的な成果であると考えられるが、今回、足利工業大学との共同開催による講座を実施できたこと自体が最大の成果であった。

「科学技術」と「エネルギー」をテーマとした今回の講座は2年間で終了し、次年度に実施する事業は新しいテーマを設定して研究中である。しかし、足利工業大学と連携した事業実施の窓口として総合研究センターが門戸を開いており、常に積極的に共同事業に取組んでいただけることが理解できたことは、単に公民館事業だけに止まらず、足利市における生涯学習の推進にも大きな一歩を記すことができた。

さらに、良い意味で「大学の講義を聞いているようだった」というような受講者からの声もあるように、アカデミックな雰囲気に触れ、市民にとっても新たな学習のきっかけになると同時に、地元の大学を身近な存在として認知する機会にもなったと思われる。

(8)　課　　題

2年間、大学との共同開催として本事業を実施してきた。そこでの課題はやはり学習内容である。

現代的課題に関する学習機会を提供する本事業は、募集対象者を一般成人としており、幅広い年齢層の受講者が集まる。そのため、テーマは一つであっても、具体的な興味・関心の方向もまちまちであり、受講者個々の学習ニーズは計り知れない。そこで今回は、「生活に密接に関わる内容」に絞り込み、大学とも何度も打ち合わせを重ねた。しかし、受講生からは一部ではあるが講義自体が「難しい」との指摘を受けた。大学も初めての取組みであったため、講師も多様な学習ニーズをもつ市民を前に講義をすることは不慣れな面があったことは否めない。今後、この様な事業を展開するためには、講師個人との綿密な打ち合わせを行い、社会教育事業

の現状、受講者の状況を伝えることがなによりも必要であろう。

共同開催での事業は、お互いの意思の疎通と共通理解が不可欠であり、双方の目的を達成するため、そして期待をもって受講してくださる方のための内容作りをしていく必要がある。

7 おわりに

社会の変化に応じて、人々には様々な新しい学習課題が発生し、学習の必要性は高まることはあっても、なくなることはない。そして、これらの課題の解決のためには公民館事業などの社会教育事業が担う部分が多い。さらに、これからの学習に対する市民の要望は、より多方面に渡っていくことが予想される。

そこで「だれでも、いつでも、どこででも」そして「何でも」学ぶという場の提供を、学習者一人ひとりに即した視点から取組んでいくことが我々の使命である。

生涯学習課公民館職員研究部会　南部第2ブロック専門部会員

茂木智弘（御厨公民館）

福島利男・田村　勇・栗原正一（筑波公民館）

蜂須義久（久野公民館）　八代浩守（梁田公民館）

研究の助言者

高島正典（社会教育指導員）　中島祥文（社会教育係）

評

いわゆる学歴社会の弊害を是正し、心の豊かさや生きがいのための学習意欲の増大や、社会・経済の変化に伴い、人々の学習需要は、多様化、高度化してきています。このことは、本市においても同様で、「足利市の教育目標」の具現状況評価結果にも市民の生涯学習への意欲の高まりがうかがわれ、市民のニーズに応じた学習機会の一層の拡大と充実が本市の生涯学習推進において、大きな課題となっています。また一方、国においては現在進められている大学改革において、社会に開かれた高等教育機関を目指し、大学等の高等教育機関に対し、高度で体系的かつ継続的な学習機会の提供者として、生涯学習社会の中で重要な役割を果たすことを期待し、広く社会に開かれることを求めています。

このような中、本研究は、公民館職員研究部会と足利工業大学との共同開催による実践的研究であり、本市における生涯学習の推進に大きな一歩を記していただきました。主な特色として次のような点があげられます。

○　市民の高度化、多様化する学習要求に対し、公民館職員の研修の場である公民館職員研究部会を設置し、共同研究により市民の生活や社会の動きを踏まえ、学習内容の充実に努めている。

○　足利工業大学総合研究センターとの連携により、事業の目的、内容、運営について協議を重ね、より市民の要求を満たす現代的な課題について掘り下げた学習を提供している。

○　事業実施後、常に評価を行い、次年度の計画立案に生かすことにより、受講生の参加数が増加するとともに、公民館側、大学側双方にとっても利点のある事業となっている。

今後とも、より市民の学習ニーズに応じた学習機会の充実のために大学との連携を一層図りながら「いつでも、どこでも、だれでも、何でも」学べる足利市における生涯学習社会の構築を目指し、研究していただくことを期待します。